

地域防災力の向上を

令和4年度白石市消防団春季消防演習

4月3日、白石川緑地公園で「令和4年度白石市消防団春季消防演習」を行いました。演習は開催規模を縮小し、3年ぶりとなる開催。この日は、白石市消防団の8分団から280人が参加し、機械器具点検や実地放水を行い日ごろの訓練成果を披露しました。

山田市長は「3月16日に発生した福島県沖を震源とする地震での迅速な対応は、実に頼もしい限りでありました。消防団の責務を優先し、市民の安全・安心のために活動へ従事していただき、市民を代表して感謝申し上げます。今後も地域に寄り添った防災活動を期待します」とあいさつ。大野芳郎消防団長は「火災や災害の発生は予測不可能です。消防団として市民の期待に応えるため、有事への備えは怠ってはならないと考えます。これからも災害発生を想定した訓練の継続をお願いします」と団員へ訓示しました。



1



2

1_白石川へ向けての実地放水 2_機械器具点検を行う団員たち

地元の伝統工芸を学ぶ

小学生がこけしの絵付けを体験

4月13日、大平小学校でこけしの絵付け体験が行われ6年生の児童15人が絵付けを行いました。この絵付け体験は市内の小学校6年生を対象に毎年実施しているもので、今回製作した作品は「第64回全日本こけしコンクール」の会場に展示されます。

この日は弥治郎系こけし工人を講師に迎え、工人から顔の描き方や筆の使い方などを教わった後、児童たちは絵付けに挑戦。途中、工人から描き方のアドバイスをもらったり、タブレット端末を使ってこけしの模様を調べたりしながら、児童たちは表情豊かなこけしを描き上げました。参加した児童は「春をイメージして作りました。顔を描くのが難しかったけど、楽しかったです」と笑顔で話してくれました。

全日本こけしコンクールは、新型コロナウイルス感染症の影響で2年連続中止となっていて、本年は3年ぶりに開催されます。



1



2

1_ろくろを使いながら真剣に絵付けをする児童 2_タブレット端末でこけしを調べて、できあがりの作品のイメージを考える様子

復旧の手助けに

図書館ボランティア活動

3月24日、図書館で地震により本棚から落ちた本の片付け作業に中学生が参加しました。

3月の地震の影響で図書館では所蔵する約13万冊以上ある本の半分以上が本棚から落ちるなどの被害が発生。この日は個人文庫コーナーの本を市内の中学3年生4人が分類ごとに本棚に戻す作業を行いました。活動に参加した中学生は「一日でも早く日常を取り戻したいと思って参加しました。機会があればこれからも協力したいです」と話してくれました。



▲落下した本を1冊ずつ丁寧に片付ける中学生

迅速な行動・連携で人命を救う

人命救助に対する消防表彰

3月29日、人命救助に尽力されたスパッシュランドしろいしと山形県のスイミングスクールコーチやトレーナー、高校生の池田規生さん、武田理さん、高内愛斗さんに半澤正勝白石消防署長から感謝状が贈呈されました。昨年の12月25日、同施設のプール内で心配停止状態の男子高校生を発見。互いに協力し合い胸骨圧迫やAEDによる処置で心拍再開につながりました。半澤署長は「施設の協力と連携がとられた素晴らしいケースでした」と話してくれました。



▲感謝状を受け取るスパッシュランドしろいし山崎美和主任(右)

スマホで多様なつながりを

大鷹沢公民館「スマホ教室」

3月14日、大鷹沢公民館で「スマホ教室」が行われ地区民12人が参加しました。

令和3年度4回目の開催となるこの日は、LINEの使い方の説明を聞き、参加者が自分のスマートフォンを使って登録などの一連の操作を体験。操作に不慣れな参加者には講師が一緒に画面を操作しながら説明していました。

参加者は、「周りでLINEを使っているのを見ていて自分も使いたいと思っていました。早速お友だち登録をしたいです」話してくれました。



▲講師から操作方法の説明を受ける参加者